

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市真田町長 6918 番地 1
評価実施期間：R元年7月1日からR元年12月3日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050431・B18051・061243	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年7月現在）

事業所名（施設名）：佐久市立城山保育園	種別：保育所
代表者氏名：佐久市長：柳田 清二 （管理者氏名） 園長：佐藤 裕子	定員：160名（現員178名）
設置主体：佐久市 経営主体：佐久市	開設（指定）年月日： 平成29年4月1日
所在地：〒385-0034 長野県佐久市平賀4195	
電話番号：0265-78-3691	FAX番号：0267-62-4196
ホームページアドレス： //www.city.saku.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：30名 非常勤職員：0名
専門職員	（専門職の名称） 保育士 26名
	栄養士 名
	調理師 4名
施設・設備の概要	（居室数） 保育室：6室 未満児室：1室 乳児室：1室 調乳室：1室 ほふく室：1室 事務室：1室 遊戯室：1室 （設備等） トイレ：9箇所 調理室：1箇所 園庭：雲梯・砂場・鉄棒・プール コンビネーション遊具

3 理念・基本方針

【佐久市理念】

- 子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培います。
 - ・資質・能力（主体的・対話的・深い学び）を育むことを大切にしながら子どもの発達を援助します。
 - ・保育所の特性や専門性を活かして保護者・地域と共に子育てをします。

【佐久市保育目標】

- 1 自然の中で楽しく遊ぶ子ども
- 2 心身共にたくましい子ども
- 3 思いやりのある子ども

【城山保育園の理念】

- 子ども一人一人を大切にしながら、豊かな生活経験を通して生きる力を育てる。
- 保護者や地域の子育て家庭に対する支援、及び地域社会との交流、連携を図り、ともに子どもを育てる。

【城山保育園の方針】

- 1 子どもの思いを温かく受け入れ、主体的に活動できる子どもを育む。
- 2 子どもを中心に捉え、家庭と密に連携し、安心して子育てができるようにする。

【城山保育園の目標】

- 1 思いやりをもち、友だちを大事にする子ども
- 2 話の聴ける子ども
- 3 自然の中で思いきり遊ぶ子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- 城山保育園は、城山を東に控え周りを山や田畑に囲まれた山里に立地し、主要道路は近くに富岡街道（県道）が通るが、主に生活道路のため比較的静かな環境下にあります。また、市の中心部や繁華街からは離れ山に囲まれた農村地帯で、昔ながらの地域と新しい住宅区域とが混在しています。
- 平成 29 年 4 月、平賀保育園と内山保育園を統合し城山保育園として現在の園舎を開園しましたが、主に園児は、平賀と内山の 2 地区から通園し広範囲にわたっています。
- そのような環境の中、自然との関わりや自然の中で生まれる自己肯定感を大切にしながら、信州型自然保育「やまほいく」に取り組んでいます。保育目標の「自然の中で思いきり遊ぶ子ども」に基づいて、自然に親しみ、戸外活動を多く計画し、自然や地域の人たちとの触れ合いの中で、園児一人ひとりの興味や関心、遊びが広がるよう保育しています。
- 地域の方たちとの関わりについて
 - ・老人会の方たちに野菜作りを教えていただき、また伝統行事である十日夜の藁鉄砲作りを見て歌に合わせて打ち付ける体験をしています。
 - ・老人福祉施設の入居者やデイサービス利用者のお年寄りと触れ合う機会があります。
 - ・近くの寺院の行事（花まつり、観音祭り）で、地域の方たちと触れ合い、年長児は就学前に寺院の本堂で座禅体験をさせていただいています。
- 発達の気になる子どもや子育てについて、保健師や心理専門職が保護者や保育士の相談に応じています。また、関係機関と連携を強化し、障がいや早期に気づき子育て支援や就学支援に繋がるよう努めています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初回
---------------	----

6 評価結果総評（利用児調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○新築の園舎で環境が整えられている。

南向きの園舎で明るく、木がふんだんに使われており、快適な生活が送れる環境が整えられています。未満児室の床暖房やくつろげるスペースが設けられているなど、子どもたちが安心して生活できる工夫がみられます。

○地域との関係が適切に確保されている

佐久市の保育事業についての中・長期計画には、地域との関わり等に関する基本的考え方が明示され、事業計画には、多様な地域交流行事が計画され実施されています。特に 2 園の統合と共に新しい地域との良好な関係作りは、健やかな子どもの育ちやスムーズな事業運営につながることを、園長や職員は共有し、地域交流が適切に行われていることが確認できます。

また、保育園を取り巻く環境に恵まれ、自然との関わりや地域の人たちとのやり取りは、子どもたちに社会性や思いやりなどが培われています。

○子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

園児一人ひとりの保育サービスの実施状況は、佐久市公立保育園の統一した記録様式により、適切に記録されていることを訪問調査時に保育計画書で確認できました。記録の保管も規程に基づき

園長室で所定の場所に管理されていて、記録は職員が情報共有できるように計画の評価、見直し等も行われ、引継ぎや申し送りの機会も定められていて、職員の共有化の取り組みが認められます。

○一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

職員（特に保育士）は、一人一人の園児の家庭環境や生活リズム、発達状態を的確に把握し、園児の個人差や特性を共有しながら、個々の園児の状態に応じた適切な保育を目指していることを職員インタビューや指導計画等においても確認できました。

今回の訪問調査で、特に支援の必要な子に対しての丁寧な関わりを、実際に見ることができました。利用者調査の中にも「子どもに対して親身に対応してくれ、安心して子どもを預けることができます」とありました。

園目標にも“自然の中で思いきり遊ぶ子ども”とあり、特徴的保育でもある信州型自然保育「やまほいく」として地域の神社や城山などへの散歩や自然物を使つての発想豊かな制作や遊びの創造性を大切に保育されていました。このように、子どもたちが身近な環境に主体的に関わって心を動かし遊び発展し学びにつながるよう、園長はじめ職員が、気持ちを一つにして園内研修を重ねて保育を構築しています。

○災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。

防災計画に基づいて、毎月、想定される種々の訓練を実施しています。災害時の園児の安全確保については、保護者に対しても、オクレンジャー（緊急連絡網、安否確認システム）による対応連絡体制が整備されていました。また、先日の台風による災害発生時には、当園が自主避難場所に指定されていることもあり、いざという時の役割や行動について、しっかり確認することができ、今後の計画や実施に活かされることと思われます。

◇特に改善が必要と思われる点

○理念、基本方針の明文化と周知をさらに図っていただきたい。

職員や保護者への周知が不十分であることがインタビューで分かりました。保護者総会での説明や園だよりなどで保護者への周知を図り、職員には保育計画や事業計画を立てる前に周知を図り、理解したうえで立案することが園児や保護者の利益につながるのではないかと思います。さらに地域の方や協力者の方にも知っていただくよう事務室などにも明示されることが望まれます。

○保護者が相談や意見を述べやすい環境体制をさらに図っていただきたい。

園児（保護者）本位の保育サービスにおいて、保護者が相談したい時や意見を述べたい時に、気軽にできる環境体制が整備されていることが必要になります。相談したい相手の選択等の文書化と、周知のための保護者への説明及び掲示と相談室の明示や相談しやすい環境の工夫（カーテンなどの利用）などもお願いします。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添1）
- ・ 内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

- ・ 別紙添付
アンケート方式（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）